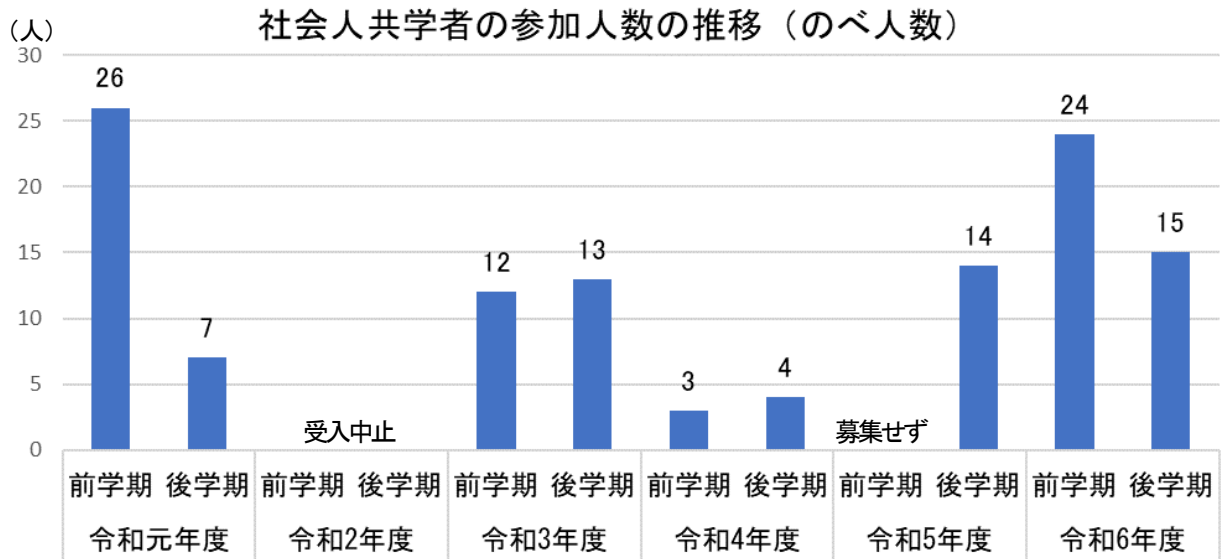


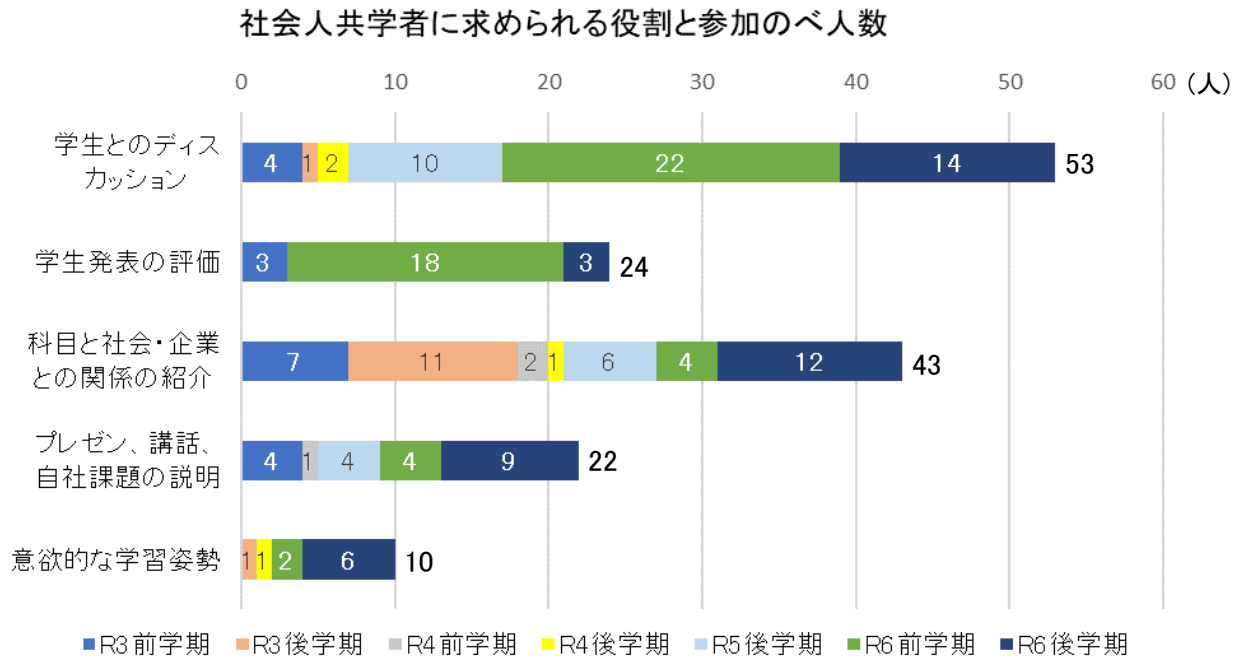
社会人共学者の実績

1. 社会人共学者の参加人数の推移（令和元年度～令和6年度）



注：上のグラフの中で、令和2年度はコロナ禍のため社会人共学者の受け入れを中止し、令和5年度前学期は業務の都合で社会人共学者の募集をしませんでした。

2. 社会人共学者に求められる役割（令和3年度～令和6年度）



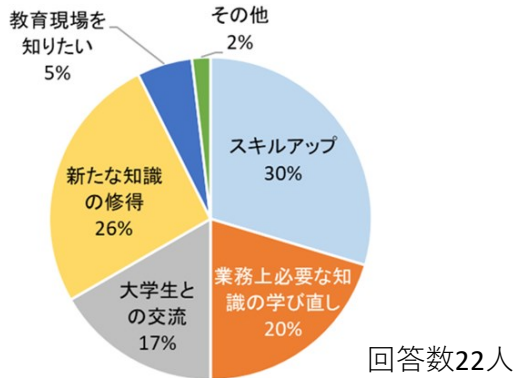
注：上のグラフは、社会人共学者の参加のあった科目の社会人共学者に求められる役割を集計した結果であり、多かった順に「学生とのディスカッション」、「科目と社会・企業との関係の紹介」、「学生発表の評価」となっています。

参加者、学生、教員の声

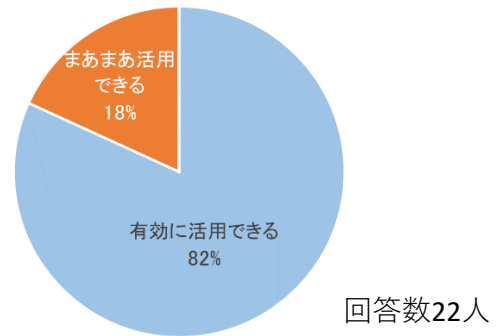
(令和6年度・前学期)

1. 社会人共学者に参加された社会人のアンケート結果 (抜粋)

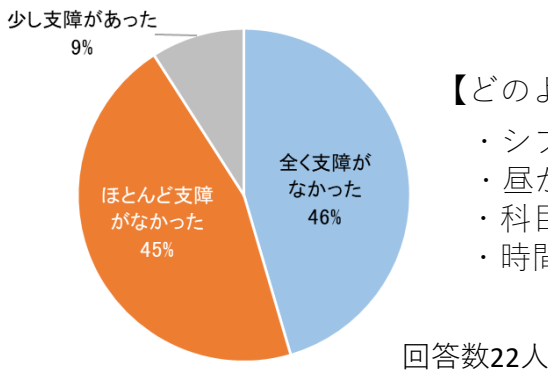
■ どのような目的で参加されましたか？



■ 学んだ内容は今後の業務や日々の生活等に活用できる内容でしたか？



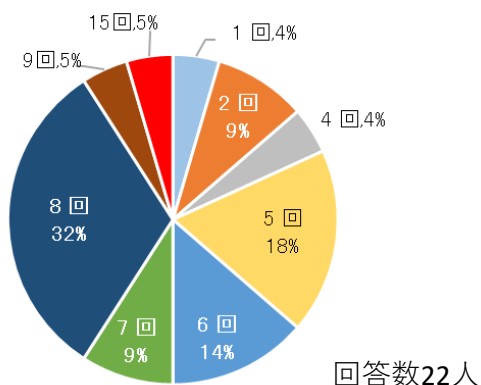
■ 参加にあたり、所属する企業等の業務への支障はありましたか？



【どのような業務の調整が必要でしたか？】

- ・シフトの調整
- ・昼からの業務開始時間をずらしてもらうことにしました。
- ・科目が1限目のため、時間休の取得で済み、調整しやすかった。
- ・時間の調整が可能な曜日の授業の中から科目を選択した。

■ 15回分の授業中、何回参加しましたか？

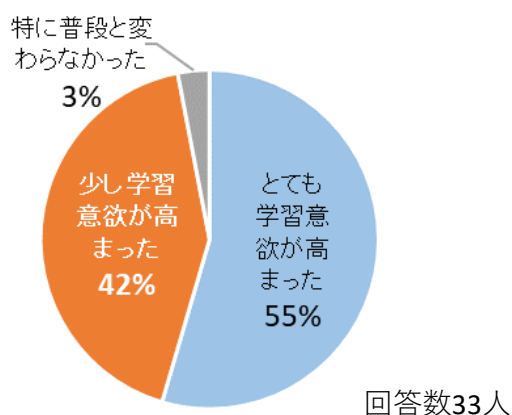


■ 授業で学生と意見交換など交流した感想をお聞かせください。

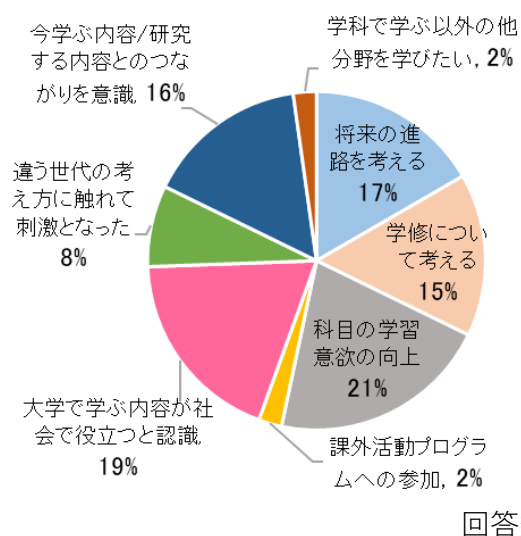
- ・専門的なことを聞かせてもらったり、自分とは違う視点で物事を分析していたり、非常に刺激になりました。
- ・現役生の思考、価値観、学生のマインドを含め、とても有意義な時間を過ごすことができ、自身の学びと成長、視野の拡大になりました。
- ・学生からの素朴な質問はこちらにとっても学びの視点になりました。学生にとっても現場の実体験を知ることで理解が進んだとのコメントがあり、役に立てたなら嬉しく思います。

2. 社会人共学者と一緒に学んだ学生のアンケート結果（抜粋）

■ 社会人と学んで自身の学習意欲に変化はありましたか？

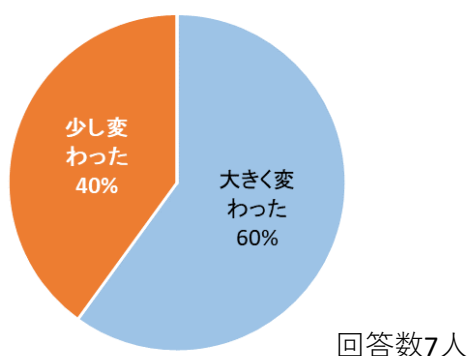


■ 社会人と共に学んだこと、感じたことをお聞かせください。



3. 教員のアンケート結果（抜粋）

■ 社会人が参加して学生の学習態度に変化はありましたか？





■ 学生の学習態度の変化について特筆すべき点がありますか？

- ・ 授業に特別な工夫はしなかったが、社会人がいることで学生がペアワークやグループワークにしっかりと取り組んでいた。
- ・ 社会人のプレゼンを組込むことで、学生は学んでいる技術が実社会でどのように生かされているのか、メリットや課題等を知ることができた。
- ・ 社会人の経験を語ってもらうことで学生が実業務をよりイメージしやすくなった。
- ・ 参加者の受講態度や発言内容等、学生の参考になることばかりだった。



■ これまでの社会人共学者の参加事例

項目		内容
年度・期	令和7年度・前学期	 <p>学生の発表に対し、建設業界の具体例を交えてコメントされる社会人（令和7年6月4日(水)）</p>
科目名	イノベーション基礎 [1単位(7コマ)] (環境土木工学科・3年次・必修)	
担当教員	宮里 心一 教授、田中 泰司 教授 花岡 大伸 准教授	
参加授業	参加可能授業7コマの内 1コマ参加	
社会人共学者の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・学生発表の評価 ・科目と社会・企業との関連性の紹介 ・社会人の意欲的な学習姿勢による授業の活性化 	
参加者	プレストコンクリート建設工事企業 技術本部技術研究所：1名（北関東在住、本学OB）	
参加動機	後輩学生（若手）の土木工学に関するイメージ・モチベーション等を知りたく、また先輩（本学卒業生）としてアドバイスしたいので。	
授業の様子	<p>学生5～6名によるチーム活動を行い、実社会の課題やニーズを選定し、独自の解決策を創出してプレゼンテーションする授業であり、当日は3教室に分かれて各チームの発表が行われた。参加者は3教室を回り、計3チームの発表を聞き、各チームに建設会社での勤務経験を基に、具体例を交えながら分かりやすくコメントやアドバイスされていた。また、発表終了後、次回の最終発表に向けて修正中の学生の質問に丁寧に対応されていた。</p>	
アンケート	参加目的	自身の経験等を学生に伝えるため。
	学習後の気づき	学生ならではの視点や発想を知る機会となった。これまでに、経験や知識による発想時の土台が構築されていたが、学生の考えを知ること、そういった土台以外の領域で考えることの重要性を確認した。

項目		内容
年度・期	令和6年度・後学期	 <p>授業の感想を発表する参加者（令和7年1月27日(月)）</p>
科目名	情報通信システム [2単位(15コマ)] (電気電子工学科・2年次・選択必修)	
担当教員	横谷 哲也 教授	
参加授業	参加可能授業15コマの内 13コマ参加	
社会人共学者の役割	社会人の意欲的な学習姿勢による授業の活性化	
参加者	石川県個人事業主：1名	
参加動機	自分の能力向上と大学の講義に参加して学習意欲を向上させるため	
授業の様子	<p>授業はオンライン併用の対面で行われ、通信に使用されるケーブルについて、種類、伝送方式、特徴等を学ぶもので、参加者は最前列でメモを取りながら熱心に受講されていた。</p> <p>1月27日（月）の最終授業では、参加者が授業に参加した感想を学生に発表する機会があった。内容は、日本製品が1980～90年代に世界市場で高いシェアを誇っていた事実と現在の低迷状況を対比させながら、自身の経験を交えて、授業での勉強に加え、学生時代に多くの体験をするよう奮起を促すものであった。</p>	
アンケート	参加目的	スキルアップ
	学習後の気づき	今回選択した科目では、学生との交流はあまりできなかったが、私から、学生に対して意見、感想を述べる機会を与えていただいた。一つでも伝わるのであれば嬉しい。
その他	1月27日（月）にリクルート進学総研の社会人共学者についての取材があり、3月10日（月）にWeb公開された。 https://souken.shingakunet.com/higher/2025/03/post-3472.html	